

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和4年3月21日をもって、「まん延防止等重点措置」が解除され、令和4年度の上期については、「どうみん割」など宿泊助成や一昨年に引き続き教育旅行による来訪が順調であったことなどから、上期の観光入込客数は、前年同期比30.5%増の261万1千人と報告されており、10月以降も全国旅行支援である「HOKKAIDO LOVE! 割」や「はこだて割」の後押しもあり順調に推移いたしました。

このような中、当協会では、函館市など観光関係者と連携し、一昨年当地に教育旅行で訪問いただいた北関東、南東北の学校に対し、お礼のため訪問するとともに、引き続きの来函について要請して参りました。

また、大船遺跡、垣ノ島遺跡が「北海道・北東北の縄文遺跡群」として、世界遺産に登録されて1周年を迎えたことから、更なる周知を図るため北海道観光振興機構や青森県観光国際交流機構等とともに周知PR事業を進めて参りました。

さらに、コロナの感染状況の落ち着きを機に、新たなマーケットとして、「卒業旅行」の誘致に取り組んだところ、一定の需要があったことから、今後も継続して取り組み来訪者数を増やして行きたいと考えております。

インバウンドへの取り組みとしては、函館市や函館商工会議所とともに台湾へのトップセールスを行い、台北―函館間の定期便の再就航に向けたプロモーションを行うとともに、旅行代理店向けのファミトリップを実施し、新たな旅行商品の開発を促したところ、本年5月よりタイガーエア台湾の再就航に結びついたものと考えております。

一方で、函館市内のイベントでは、「函館港まつり」を関係機関と十分な協議を重ね、全体日程の短縮、パレードコースの短縮化等の感染対策を図りながら3年振りに実施いたしました。パレード参加者数は、例年の十分の一以下となりましたが、参加者、観客ともに沢山の笑顔が見受けられました。

また、「はこだてクリスマスファンタジー」につきましても、3年振りにスーパバーを実施いたしました。大変多くの皆様に会場に足を運んでいただき、また、「はこだて冬フェスティバル」では、「はこだてイルミネーション」、「はこだて冬花火」、「はこだてひかりのガーデン」を実施し、観光客や市民に楽しんでいただきました。